

12月7日(日)  
■子どもの権利条約フォーラム2025 in 鹿児島

12月7日(日)  
■南九州西回り自動車道一般国道3号芦北出水道路境川橋(仮称)連結式

12月13日(土)  
■知事とのふれあい対話(鹿児島地域)

12月20日(土)  
■カーボンニュートラルフェアinかごしま

1月7日(水)  
■「かごしまを元気にする学生政策アイデアコンテスト2025」表彰式

1月12日(月)  
■知事とのふれあい対話(大隅地域)

1月16日(金)  
■「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」ラウンド・テーブル・ミーティング

1月29日(木)  
■令和7年度「鹿児島島の夕べ」

1月30日(金)  
■ホテルニューオータニ(東京)トップセールス

1月31日(土)  
■ほこらしや奄美音楽祭in徳之島

2月4日(水)  
■トイレカー等お披露目会

2月5日(木)  
■鹿児島県コミュニティづくり推進大会

2月9日(月)  
■令和7年度知事表彰「スポーツ部門」表彰式

2月12日(木)  
■「第5回あなたが選ぶかごしま景観大賞」表彰式

2月16日(月)  
■鹿児島県価格転嫁サポーター制度キックオフセレモニー

12月7日(日曜日)

### 南九州西回り自動車道一般国道3号芦北出水道路境川橋(仮称)連結式



熊本県と鹿児島県の県境における南九州西回り自動車道一般国道3号芦北出水道路境川橋(仮称)連結式にて、金子国土交通大臣・木村熊本県知事や地元の子どもたちと一緒に、上部工本体に金色のシャベルで最終コンクリートを投入した後、金子大臣・木村知事と固く握手を交わしました。

熊本県と本県が、境川橋でつながることで、地域の絆が一層深まり、交流を通じた両県の関係深化に期待しています。

今後とも、沿線市町や地域の皆さまと一丸となって、南九州西回り自動車道の1日も早い全線開通が実現するよう国及び関係機関とともに、しっかりと取り組んでまいります。

※芦北出水道路 水保IC～出水IC間は令和10年度に開通見込み



1月12日(月曜日)

### 知事とのふれあい対話(大隅地域)



大崎町・東串良町を対象に、知事とのふれあい対話を開催しました。「農業の『稼ぐ力』の向上について」をテーマに意見交換を行い、参加された方々から、耕作放棄地の解消や農地集約推進の要望のほか、農地利用のアイデアコンテストの開催などのご意見をいただきました。

これらのご意見は、可能な限り政策に反映させるよう努めてまいります。

また、この対話の開催と合わせて、パッションフルーツを栽培している果樹農家、きゅうりを栽培している農園、ピーマンを栽培している農園、さらに、野菜出荷加工センターの視察も行いました。



1月29日(木曜日)

### 令和7年度「鹿児島島の夕べ」

東京で令和7年度「鹿児島島の夕べ」を開催し、関東在住の薩摩大使をはじめ、百貨店・量販店バイヤー、食品流通関係者、観光関連事業者など、約550名の方にご出席いただきました。

「日本一の宝物で『稼ぐ』鹿児島へ!」を開催テーマとし、県内の事業者に出展いただき、日本一の県産和牛、養殖ブリ・カンパチ、お茶、本格焼酎などを中心に、鹿児島が誇るたくさんの県産品をPRしました。

また、ステージでは、瀬戸内町出身の里歩寿さんによる島唄のほか、鹿児島市出身の作詞家京えり子さんが作詞された「暖流桜」を演歌歌手の川中美幸さんが披露され、会を盛り上げていただきました。

今後も、事業者の皆さまと連携しながら、本県のすばらしい宝物の認知度向上や、国内外における販路拡大、魅力発信、観光誘客などに向けて取り組んでまいります。



2月4日(水曜日)

### トイレカー等お披露目会

令和6年に発生した能登半島地震を受け、半島や離島を有する本県の今後の防災対策につながる資器材として、県内自治体で初導入となるトイレカー等を整備しました。

今後は、訓練やイベントにおける展示を通じて、市町村への普及啓発を行うほか、大規模災害の発生時に活用することとしています。引き続き、防災・減災対策の推進に向けて取り組んでまいります。



1月31日(土曜日)

### ほこらしや奄美音楽祭 in 徳之島

島唄と奄美の多彩な芸能文化を奄美の宝物の一つとして発信する「ほこらしや奄美音楽祭in徳之島」を徳之島3町とともに開催しました。

徳之島、奄美群島、さらには奄美群島と深いつながりを持つ沖縄県からも演者をお招きし、島唄を中心に郷土芸能や演劇などを楽しんでいただきました。中でも、城南海さん、前山真吾さん、奄美オーケストラによる「よいすら節」は、島唄とオーケストラの共演という、この音楽祭ならではの演目で、ご来場の皆さまにご堪能いただけたようでした。フィナーレでは、約530名のお客さまと出演者の皆さまで六調を踊り、会場は大きな一体感と歓喜に包まれました。

今後も、島唄をはじめとする奄美の文化の継承と、これを生かした地域づくりに取り組んでまいります。

